

令和5年度

SYLLABUS

～ Approach to Studying ～

2年 普通科



香川県立高松南高等学校

はじめに

皆さんは、マンガを読みますか？テレビやパソコンでゲームをしますか？

マンガやゲームが生活に深く根付いている今、マンガを読んだことやゲームをしたことのない人を捜すのは至難の業でしょう。中には、自分の時間のほとんどを、マンガやゲームに費やす人もいたりして…。

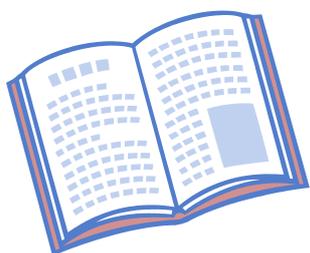
ところで、なぜ、マンガを読んだりゲームをしたりするのか考えたことがありますか。何人かの生徒に聞いてみると、「面白いから」とか「ストレス解消」という答えが返ってきました。しかし「なぜ、そんなことを聞くのか」と、逆に質問されてしまいました。楽しいことに対して「なぜそれをするのか」と聞くことが、そもそも不思議だったようです。

では、勉強についてはどうでしょう。「なぜ勉強しなければいけないのか」、「こんな勉強をして何になるのか」。そう思ったことはありませんか。この質問にズバリ答えるのはとても難しいことです。考古学者の平賀・キートン・太一氏は、閉鎖されるパリのシモンズ社会人学校の冬季セミナー最後の講義で、「人間は一生学び続けるべきです。人間には好奇心、知る喜びがある。肩書きや、出世して大臣になるために学ぶのではない。それが人間の使命だからです。」と本質的理由を受講生に語っています。少し考えてみても、テストに出る、成績が上がるとお小遣いも上がるなどの外発的理由や、将来の仕事に役立つ、分かれると充実感があるなどの内発的理由まで様々でしょう。

シラバス (Syllabus) の語源はギリシャ語の「Sittuba」で、元々は羊皮紙製の書籍ラベルのこと。明治時代には「教授要目」などと訳されていたようです。ページをめくっていただければお分かりのように、本校のシラバスは、科目の概要や学習目標、授業計画、学習方法など、履修や選択するために必要な情報をコンパクトにまとめています。

高等学校での学習の基本は「授業」。もちろん家庭学習も大切ですが、毎日の「授業」をないがしろにして、家庭学習は成立しません。

折に触れ、シラバスのページをめくってください。きっと、授業を通して何をどう学ぶのかを考える手助けになるはずです。



参考文献：『開かれた学びへの出発』市川伸一（金子書房）

『MASTER キートン』勝鹿北星（小学館）

普通科 コース制

第2学年から、自分の進路・適性にあわせて、コースを選択します。

- ①**文理コース(文系)** 英語, 国語, 地理歴史を重点的に, 各教科バランスよく学習します。国公立大学の文学・外国語・法学・経済・社会学部などへの進学に対応しています。
- ②**文理コース(理系)** 数学, 理科を重点的に, 各教科バランスよく学習します。国公立大学の理学・工学・薬学・農学部などへの進学に対応しています。
- ③**総合(文系)コース** 英語, 国語, 地理歴史を重点的に学習し, 私立大学の文学・外国語・経済・福祉・家政・芸術・体育学部などへの進学や, 短期大学, 各種専門学校への進学に対応しています。
- ④**総合(理系)コース** 数学, 理科を重点的に学習し, 私立大学の理学・工学・農学部などへの推薦入試での進学や, 短期大学, 各種専門学校への進学に対応しています。特に, 医療系への進学を考えている者に対応しています。
- ⑤**情報ビジネスコース** 商業科目の簿記・情報処理などを重点的に学習し, 各種検定試験に挑戦します。経済・商学部系の大学や, 情報ビジネス系の専門学校への進学, また, 一般企業への就職(事務職, 販売職, サービス職等)に対応しています。

①文理コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学I	数学A	生物基礎	体育	保健	芸術I	英語コミュニケーションI	論理・表現I	情報I	総合	LHR	/																		
2年	文学国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	公共	数学II	数学B	化学基礎	地学基礎	体育	保健	英語コミュニケーションII	論理・表現II	家庭基礎	総合	LHR																			
3年	論理国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	政治・経済	数学II	数学C	化学基礎	生物基礎	地学基礎	体育	英語コミュニケーションIII	論理・表現II	総合	LHR																				

◆ 地理歴史において、探究科目は2年3年継続履修する。

②文理コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学I	数学A	生物基礎	体育	保健	芸術I	英語コミュニケーションI	論理・表現I	情報I	総合	LHR	/																		
2年	文学国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	公共	数学II	数学III	数学B	数学C	化学基礎	化学	生物 物理基礎	体育	保健	英語コミュニケーションII	論理・表現II														家庭基礎	総合	LHR			
3年	論理国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	数学III	数学B	数学C	物理基礎	生物	化学	体育	英語コミュニケーションIII	論理・表現II	総合	LHR																				

- ◆ 地理歴史において、探究科目は2年3年継続履修する。
- ◆ 2年次に物理基礎を選択した者は3年次に物理を選択し、2年次に生物を選択した者は3年次に物理基礎及び生物を選択する。

③総合コース(文系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合	LHR															
2年	文学国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	化学基礎	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅱ	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	総合	LHR																
3年	論理国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	政治・経済	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	芸術Ⅲ	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅱ	総合	LHR																		

- ◆ 2年の芸術科Ⅱの科目は、1年で履修したⅠ科目と同じ科目とする。
また、3年の芸術科Ⅲの科目は、1年2年で継続履修したⅠ及びⅡ科目と同じ科目とする。

④総合コース(理系)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合	LHR															
2年	文学国語	古典探究	公共	数学Ⅱ	数学B	化学基礎	化学	生物 物理基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	家庭基礎	総合	LHR																
3年	文学国語	古典探究	地理探究 日本史探究 世界史探究	数学Ⅱ	数学C	物理基礎	生物 物理	化学	体育	英語コミュニケーションⅢ	総合	LHR																		

- ◆ 2年次に物理基礎を選択した者は3年次に物理を選択し、2年次に生物を選択した者は3年次に物理基礎及び生物を選択する。

⑤(情報ビジネスコース)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	現代の国語	言語文化	地理総合	歴史総合	数学Ⅰ	数学A	生物基礎	体育	保健	芸術Ⅰ	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	情報Ⅰ	総合	LHR															
2年	文学国語	公共	数学Ⅱ	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	家庭基礎	ビジネス基礎	ビジネス・コミュニケーション	簿記	情報処理	総合	LHR																
3年	論理国語	地理探究 日本史探究 世界史探究	数学Ⅱ	科学と人間生活	体育	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	課題研究	ビジネス・コミュニケーション	マーケティング	情報処理 原価計算	総合	LHR																	

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。（読む） ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上（80%未満）理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上（65%未満）理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。（読む） ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）「高校生必携語彙ノート」（桐原書店）
 「新成現代文」（尚文出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	● 評論「演技する『私』」等 ● 小説「山月記」「あの朝」等 ● 随筆「書かれた風景の中へ」等
2 学期	● 詩歌： 詩「永訣の朝」等 短歌「ガラスの駒」等 ● 小説「こころ」「コンビニの母」等
3 学期	● 詩歌： 俳句「金剛の露・」等 ● 小説「舞姫」「蠅」等 ● 随筆「クレールという女」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート ・ 感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○他の考え(作品の主題や筆者の考え)と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む) ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
 「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）「高校生必携語彙ノート」（桐原書店）
 「新成現代文」（尚文出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	● 評論「演技する『私』」等 ● 小説「山月記」等 ● 随筆「書かれた風景の中へ」等
2 学期	● 詩歌： 詩「永訣の朝」等 短歌「ガラスの駒」等 ● 小説「こころ」等
3 学期	● 詩歌： 俳句「金剛の露・」等 ● 小説「舞姫」等 ● 随筆「クレールという女」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート ・ 感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。 ○他の考え（作品の主題や筆者の考え）と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。（読む） ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上（80%未満）理解できる。 ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上（65%未満）理解できる。 ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。（読む） ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。（書く） 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	● 評論「演技する『私』」等 ● 小説「山月記」等 ● 随筆「書かれた風景の中へ」等
2 学期	● 詩歌： 詩「永訣の朝」等 短歌「ガラスの駒」等 ● 小説「こころ」等
3 学期	● 詩歌： 俳句「金剛の露…」等 ● 小説「舞姫」等 ● 随筆「クレールという女」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート ・ 感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○他の考え(作品の主題や筆者の考え)と自分の考えを比較検討し、新しい考えや発想を生み出せる。(読む) ○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○読み手が理解しやすく、場に応じた表現ができる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。 ○自ら言葉を使って他者に関わろうという強い意欲がある。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。 ○言葉を使って他者に関わろうという意欲がある。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容のある程度解釈したり、評価したりできる。(読む) ○自分の伝えたいことを、ある程度まとめたり、伝えたりできる。(書く) 	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持つようとし、理解しようとしている。 ○言葉を使って他者に関わろうとしている。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「文学国語」（東京書籍）

副教材 「学習課題ノート」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「漢字の学習」（香川県高等学校国語教育研究会）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	● 評論「演技する『私』」等 ● 小説「山月記」等 ● 随筆「書かれた風景の中へ」等
2 学期	● 詩歌： 詩「永訣の朝」等 短歌「ガラスの駒」等 ● 小説「こころ」等
3 学期	● 詩歌： 俳句「金剛の露…」等 ● 小説「舞姫」等 ● 随筆「クレールという女」等

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・ 小テスト ・ 定期考査	・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題	・ ノート ・ 振り返りシート ・ 感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの80%以上理解できる。	○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○時代や国の違い等を踏まえて、現代や自分との考え等を比較、検討できる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの65%以上（80%未満）理解できる。	○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの40%以上（65%未満）理解できる。	○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「高等学校 古典探求」（数研出版）
 副教材 「準拠ワーク」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
 「古典単語 325」（尚文出版）「精選漢文」（尚文出版）「新成古典」（尚文出版）
 「古典文法クリアノート」（尚文出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●古文 ○説話「十訓抄」等 ○歌物語「伊勢物語」等 ●漢文 ○故事 ○史伝
2 学期	●古文 ○随筆「枕草子」等 ○物語「源氏物語」 ○歴史物語「大鏡」 ●漢文 ○漢詩 ○思想
3 学期	●古文 ○軍記物語「平家物語」 ○日記文学「更級日記」等 ○和歌・歌謡・俳諧「万葉集」等 ●漢文 ○文章

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの80%以上理解できる。	○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○時代や国の違い等を踏まえて、現代や自分との考え等を比較、検討できる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの65%以上（80%未満）理解できる。	○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関する事など、学んだことの40%以上（65%未満）理解できる。	○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「高等学校 古典探求」（数研出版）
 副教材 「準拠ワーク」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
 「古典単語 325」（尚文出版）「精選漢文」（尚文出版）「新成古典」（尚文出版）
 「古典文法クリアノート」（尚文出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●古文 ○説話「十訓抄」等 ○歌物語「伊勢物語」等 ●漢文 ○故事 ○史伝
2 学期	●古文 ○随筆「枕草子」等 ○物語「源氏物語」 ○歴史物語「大鏡」 ●漢文 ○漢詩 ○思想
3 学期	●古文 ○軍記物語「平家物語」 ○日記文学「更級日記」等 ○和歌・歌謡・俳諧「万葉集」等 ●漢文 ○文章

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識及び技能）
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの80%以上理解できる。	○作品の背景や他の作品などとの関係を踏まえて、作品を解釈したり、評価したりできる。（読む） ○時代や国の違い等を踏まえて、現代や自分との考え等を比較、検討できる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に強い興味や関心を持ち、理解しようとする強い意欲がある。
ステップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの65%以上（80%未満）理解できる。	○作品そのものの内容を解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持ち、理解しようとする意欲がある。
ホップ	○言葉の特徴や使い方、言語文化に関することなど、学んだことの40%以上（65%未満）理解できる。	○教師等による解説や助力を頼りに、作品そのものの内容がある程度解釈したり、評価したりできる。（読む）	○言葉の特徴や使い方、言語文化に興味や関心を持とうとし、理解しようとしている。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 古典探求」（数研出版）

副教材 「準拠ワーク」（大修館書店） 「新版六訂カラー版 新国語便覧」（第一学習社）
「古典文法クリアノート」（尚文出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	●古文 ○説話「十訓抄」等 ○歌物語「伊勢物語」等 ●漢文 ○故事 ○史伝
2 学期	●古文 ○随筆「枕草子」等 ○物語「源氏物語」 ○歴史物語「大鏡」 ●漢文 ○漢詩 ○思想
3 学期	●古文 ○軍記物語「平家物語」 ○日記文学「更級日記」等 ○和歌・歌謡・俳諧「万葉集」等 ●漢文 ○文章

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。
- ・ 「聞く・話す」、「書く」、「読む」のそれぞれの力について、自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・ 板書を写し取るだけでなく、自分の考えや感想、疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、自分で工夫をしたノート作りをする。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・ 読書を習慣化するなど、日常生活の中に「読む・書く・話す・聞く」を積極的に取り入れる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート ・感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	高校での国語の学習の基本となる科目です。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。**(知識及び技能)**
- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。**(思考力、判断力、表現力)**
- (3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>観点別：A</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">ジャンプ</p> <p>評定：5</p>	<p style="text-align: center;">世界の地域的特徴を深く理解し、広い視野から課題を追究し、論理的に表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の地域的特徴を自らの生活や社会課題等と結びつけながら深く理解している。 ○地図やグラフ・表などを自らの力で正確に読み取ることができる。 ○学びを深めるために必要な情報に気づき、それを自ら収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多面的・多角的に考察し、自分の考えを持ち、深い内容の討論や議論をすることができる。 ○地図やグラフ・表を活用し、論理的かつ効果的に事象を説明できる。 ○自分の考えを文章で的確に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○常に学習態度が主体的・対話的で、深く学び続けることができる。 ○常に創意工夫し、日常生活や他教科で学んでいることと結びつけて学ぶことができる。 ○自分で進路目標を立て、将来との関連を意識しながら学習に取り組むことができる。
<p>観点別：B</p> <p style="font-size: 2em; text-align: center;">ステップ</p> <p>評定：4</p>	<p style="text-align: center;">世界の地域的特徴を理解し、広い視野から課題を追究し、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の地域的特徴を自らの生活と結びつけながら理解している。 ○地図やグラフ・表などを自らの力で読み取ることができる。 ○学びを深めるためには新しい情報が必要なことに気づくことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の必要最小限の助言によって多面的・多角的に考察し、自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○地図やグラフ・表を活用し、筋道立てて事象を説明できる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習態度が主体的・対話的で、学び続けようとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。

成長のプロセス

 観点別：C ホ ツ プ 評定：3	世界の地域的特徴の基礎的な内容を理解し、自分なりに課題を追究し、表現しようとしている。		
	○世界の地域的特徴について基礎的・基本的な内容を理解している。 ○教師等の助言があれば地図やグラフ・表などを読み取ることができる。 ○教師等の助言があれば、学びをさらに深めるためには、新しい情報が必要なことに気づくことができる。	○教師等の助言があれば、浅い内容ではあるが、討論や議論をすることができる。 ○教師等による個別の助言があれば、地図やグラフ・表を用いて事象を説明できる。 ○自分の考えを文章で相手に伝えようとしている。	○課題や提出物などを期日までに自分の力でやりきることができる。 ○学び方や取り組み方を改善し、得意な分野や興味のある分野に対しては学ぼうとしている。 ○自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を意識することができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新詳 地理探究」（帝国書院） 「新詳 高等地図」（帝国書院）
 副教材 「地理 統計要覧 2023年版」（二宮書店）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

	単元名・学習内容	
1 学期	1章 自然環境 1節 地形 3節 日本の自然環境	2節 気候 4節 地球環境問題
2 学期	2章 資源と産業 1節 農林水産業 3節 エネルギー・鉱産資源 5節 工業	2節 食料問題 4節 資源・エネルギー問題 6節 第3次産業
3 学期	3章 交通・通信と観光、貿易 1節 交通・通信 3節 貿易と経済圏	2節 観光

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明もノートする習慣をつける。
- ・普段から地図帳に目を通し、的確な世界地図を思い描けるようにしておく。
- ・普段から新聞等に目を通し、国際社会の動向を的確につかんでおく。
- ・問題演習を通して、資料から論理的に考察する習慣を身につける。
- ・自ら課題を見つけ、自分の考えをまとめ、発表できるようにする。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・小テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・授業における発表や成果物 ・長期休業中の課題
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。また、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。(知識及び技能)
- (2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを多面的・多角的に考察する。また、歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に構想する力や、考察、構想したことをわかりやすく説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。また、多面的・多角的な考察や深い理解を通して身に付けられる日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
観点別:A シャンプ 評価:5 	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">世界史の知識をもとに広い視野から考察し、自分の考えを論理的に表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の歴史に関わる諸事象についての歴史的特質を深く理解している。 ○諸地域の交流や再編について構造的に深く理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付け、適切な場面で活用することができる。 ○学びをさらに深めるため、また多面的・多角的に考察するために必要な情報を自ら収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ歴史的な知識・技能を用いて、論理的に討論や議論ができる。 ○世界の歴史的諸事象について考察し、自ら問いを見出し、学習のねらいを明確にしたうえで課題を追究している。 ○学習内容を教師等の解説や助力がなくても多面的・多角的に考察したり、評価したり、自分の考えを持つことができる。 ○歴史的資料を根拠に、自分の考えを文章で論理的かつ的確に相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を日常生活や他教科で学んでいることと結び付け、歴史的知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○学習内容がこれからの自分の人生にどのように関連してくるかを意識しながら、学習に取り組むことができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、歴史的視野から社会の諸課題を捉え、解決するために深く追究しようとしている。
成長のプロセス 観点別:A ステップ 評価:4	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">世界史の知識を身に付け、自分なりに考察し、自分の考えを表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界の歴史に関わる諸事象についての歴史的特質を理解している。 ○諸地域の交流や再編について構造的に理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。 ○学びをさらに深めるため、また多面的・多角的に考察するために新しい情報を自ら収集できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ歴史的な知識・技能を用いて、自らの言葉で討論や議論をすることができる。 ○世界の歴史的諸事象について考察し、問いを見出したうえで課題を追究している。 ○学習内容を教師の必要最小限の助力によって理解したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○歴史的資料を参考に、自分の考えを文章で相手に伝えることがで 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を身の回りの生活と関連付け、歴史的知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方や取り組み方を振り返りながら改善し、学び続けようとする事ができる。 ○学習内容が自分の進路目標にどのように関連してくるかを考えながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、歴史的視野から社会の諸課

		きる。	題を捉え、解決するために、追究しようとしている。
△	世界史の基礎的な知識を身に付け、自分なりに考察し、表現することができる。		
観点別:B ホ ツ プ 評定:3	○世界の歴史に関わる諸事象の特質について個別に理解している。 ○諸地域の交流や再編の動きについて個別に理解している。 ○資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を一部身に付けている。 ○学びを深めた上で考察するために、新しい情報を自ら収集できる。	○学んだ歴史的な知識・技能を用いて、教師等の助言があれば、討論や議論に参加できる。 ○世界の歴史的諸事象について考察し、問いを表現している。 ○学習内容を、教師による個別の解説や助力によって理解したり、評価したり、自分なりの考えを持つことができる。 ○教師等の助力があれば、歴史的資料を用いて自分の考えを文章化できる。	○学習内容を理解するために、基礎的な歴史的知識・技能や考察力を身に付けようとしている。 ○自分の学び方や取り組み方を振り返り、より学習内容を理解するために必要なことに気付き、改善しようとしている。 ○学習内容と自分の進路との関連について考え、教師の助力で進路実現に向けて学習に取り組むことができる。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「詳説 世界史」 （山川出版社）
 副教材 「詳説世界史図録」 （山川出版社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	世界史へのまなざし 1. 地球環境からみる人類の歴史 2. 日常生活からみる世界の歴史 第1部 諸地域の歴史的特質の形成 1. 文明の成立と古代文明の特質 2. 中央ユーラシアと東アジア世界 3. 南アジア世界と東南アジア世界の展開
2 学 期	4. 西アジアと地中海周辺の国家形成 5. イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 第2部 諸地域の交流・再編 6. イスラーム教の伝播と西アジアの動向 7. ヨーロッパ世界の変容と展開
3 学 期	8. 東アジア世界の展開とモンゴル帝国 9. 大交易・大交流の時代 10. アジアの諸帝国の繁栄

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にし、板書された事柄だけでなく、先生の補足説明を書き取る習慣を身に付けるようにする。
- ・文献資料や絵画資料などの歴史的資料を読解するには丁寧に取り組むようにする。
- ・テーマごとに自分なりの問いを設定し、その問いを意識しながら授業に参加する。
- ・予習として、教科書を読んで、わからないところを発見しておく。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・ノート	・ノート ・振り返りシート ・レポート
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

我が国の歴史の展開について理解を深め、多面的・多角的に考察し、歴史に見られる課題を把握し、日本、世界の歴史の関わりを踏まえ、現代の日本の諸課題とその展望を探究する力を養い、資料を活用し多面的・多角的に考察する力を身に付け、現代の日本の諸課題を見いだして、その解決に向けて生涯にわたって考察、構想することができる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 我が国の歴史について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解する技能を身に付ける。(知識及び技能)

(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、現在とのつながりなどに着目して考察したり、課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明する力を養う。(思考・判断・表現力)

(3) 我が国の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>観点別：A</p> <p>ジャンプ</p> <p>評価：5</p>	<p>日本史の展開に関する諸資料を活用することを通して多面的に考察し、論理的・総合的に表現することができる。</p> <p>○我が国の歴史に関わる諸事象について地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べることができる。 ○諸資料から情報を読み取りまとめたりすることができる。</p>	<p>○我が国の歴史に関わる事象の意味、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察することができる。 ○我が国の歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて考えることができる。 ○事象の背景や原因・結果などに着目して考察し、根拠を示して表現することができる。</p>	<p>○歴史に関わる諸事象について振り返り、見通しを持って学習に取り組むことができる。 ○ペアワークやグループ活動で他者と協力しながら発言内容をまとめようすることができる。 ○学習した内容をもとに今後のより良い社会の実現に向けて何ができるかを考えようとしている。</p>
<p>観点別：B</p> <p>ステップ</p> <p>評価：4</p>	<p>日本史の課題を、主体的・意欲的に追求し、それを自らの言葉で表現することができる。</p> <p>○我が国の歴史に関わる諸事象について地理的条件や世界の歴史と関連付けて理解している。 ○諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に読み取ることができる。</p>	<p>○我が国の歴史に関わる事象の意味、伝統と文化の特色などを多面的・多角的に考察することができる。 ○我が国の歴史に見られる課題を把握し、解決を視野に入れて考えることができる。 ○生活や社会の変容について考察し、問いを持つことができる。</p>	<p>○教師の発言した重要だと思われる内容をノートに記録している。 ○ペアワークやグループ活動で他者の意見を尊重して聴くことができる。 ○学習内容を振り返り、次の学習へのつながりを見出すことができる。</p>

 観点別：C ホ ツ プ 評定：3	日本史の基礎的な知識を習得し、基本的な流れを理解することができる。		
	○我が国の歴史に関わる諸事象について理解する。 ○我が国の歴史に関する大まかな流れを理解する。	○我が国の歴史に関わる事象の意味、伝統と文化の特色などを教師の助言や友人と協力して考えることができる。 ○我が国の歴史に見られる課題を教師の助言により見つけ出すことができる。	○ノートやワークシートを分かりやすくまとめることができる。 ○課題や提出物を期日までに提出することができる。 ○ペアワークやグループ活動で他者の意見を最後まで聴くことができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書「詳説 日本史」（山川出版社） 副教材「詳説日本史図録」（山川出版社）、

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第Ⅰ部 原始・古代 1. 日本文化のあけぼの 2. 古墳とヤマト政権 3. 律令国家の形成
2 学期	4. 貴族政治の展開 第Ⅱ部 中世 5. 院政と武士の躍進 6. 武家政権の成立 7. 武家社会の成長
3 学期	第Ⅲ部 近世 8. 近世の幕開け 9. 幕藩体制の成立と展開

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業に主体的に参加し、「なぜ」「どうして」歴史的事象が起こったのかを考えながら取り組む。
- ・授業で疑問に感じたことを他者と話し合ったり、またそのことについて視聴覚教材やインターネット等、身近な情報端末を活用したり調べるようにする。
- ・文献やメディア、図書館、近隣の民俗行事など、生活の身近にあるもののなかで歴史や文化にふれ、関心を持つようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・授業における発表や成果物
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、国民主権を担う公民として自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	観点別：A シャンプ 評定：5	公民的な知識・技能を活用して、現実社会の諸課題の解決に向けて主体的に取り組んでいる。		
	○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら深く理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から効果的に収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけて適切な方法でまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら深く考えることができる。 ○課題の解決に向けて深く議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを分かりやすく文章で表現することができる。	○日常生活や他教科で学んでいることと関連付けて考えている。 ○常に創意工夫し、課題の解決に向けて取り組んでいる。 ○主権者としての自覚をもち、自分の人生との関わりを意識しながら学習に取り組んでいる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとしている。	
	観点別：A ステップ 評定：4	公民的な知識・技能を踏まえて現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。		
○倫理、政治、経済などに関わる概念や理論を、現代の諸課題と結びつけながら理解している。 ○諸資料を基に必要な情報を、倫理的、政治的、経済的、法的な視点から収集し、読み取ることができる。 ○収集した情報と、授業で学んだ考え方や基本的原理とを結びつけてまとめることができる。	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について、他者と協力しながら考えることができる。 ○課題の解決に向けて議論することができる。 ○学習テーマにおける問題を明らかにし、自分の考えを文章で表現することができる。	○身の回りの生活と関連付けて学ぼうとしている。 ○学び方や取り組み方を改善し、学び続けようとする。 ○主権者としての自覚をもち、自分の進路目標との関わりを意識しながら学習に取り組むことができる。 ○学習態度が主体的・対話的で学び続けようとしている。		
観点別：B ホップ	現実社会の諸課題の解決に向けて取り組んでいる。			
○倫理、政治、経済などに関わる基礎的基本的な概念や理論を	○授業で学んだ見方・考え方を活用して、現代の諸課題について	○基礎的・基本的な知識・技術や考察力を身につけようと		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○論理的に考察する力，図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にし練習問題に取り組む。 ○いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。とと 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

	もに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		
--	----------------------------	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅱ」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解
2 学 期	第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
3 学 期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○論理的に考察する力，図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。とと 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

	もに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		
--	----------------------------	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅱ」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解
2 学期	第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
3 学期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付ける。

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○論理的に考察する力，図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。とと 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

	もに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		
--	----------------------------	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）」

教科書 新課程「新編 数学Ⅱ」 数研出版
副教材 新課程 3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解
2 学期	第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
3 学期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、太字の単語の意味を押さえ、例題などを自分で考え、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○論理的に考察する力，図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。とと 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

	もに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		
--	----------------------------	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅱ」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解
2 学 期	第2節 高次方程式 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域
3 学 期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 第2節 加法定理

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度	
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。 ○論理的に考察する力，図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。 	
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。 ○提出課題等、計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。とと 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

	もに、数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。		
--	----------------------------	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅱ」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式・不等式の証明
2 学期	第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 第2節 高次方程式
3 学期	第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 第3節 軌跡と領域

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題	・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深くえて事象を的確に表現し，数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○おおよその数理的に考察する力を付けている。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○極限，微分法及びについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学Ⅱ」 数研出版
 副教材 改訂版3TRIAL 数学Ⅱ 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	
2学期	
3学期	第1章 関数 1. 分数関数 2. 無理関数 3. 逆関数と合成関数

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・ 授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・ 復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学科したり，数学的に解釈する技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力を養う。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学B」 数研出版
 副教材 改訂版3TRIAL 数学B 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 数列 1節 等差数列と等比数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式
2 学期	第2章 統計的な推測 1節 確率変数と確率分布 2節 統計的な推測
3 学期	第3章 数学と社会生活

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○公式・法則，用語などを理解し，導くことができる。 ○副教材の応用問題の解法を理解している。 ○数学的に表現・処理したりする技能を応用問題で生かせる力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 ○事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学科したり，数学的に解釈する技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力を養う。 ○基本問題の解法を自分の言葉で表現し，記述できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し，副教材で復習を行う。 ○提出課題等，計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○数列，統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし，公式成立の理由を理解しようと努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○板書を写すだけでなく，教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

成長のプロセス

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学B」 数研出版
 副教材 改訂版3TRIAL 数学B 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	第1章 数列 1節 等差数列と等比数列
2学期	2節 いろいろな数列 3節 漸化式
3学期	第2章 統計的な推測 1節 確率変数と確率分布

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。 ○事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念，原理・法則，用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学科したり、数学的に解釈する技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。 ○提出課題等、計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し，例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。 ○板書を写すだけでなく、教師の説明をメモするなど自分のノートを作る。

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学B」 数研出版
 副教材 改訂版3TRIAL 数学B 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第1章 数列 1節 等差数列と等比数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式
2 学期	第2章 統計的な推測 1節 確率変数と確率分布 2節 統計的な推測
3 学期	第3章 数学と社会生活

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1) いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 数の範囲や式の性質に着目し，等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力，座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し，方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり，図形の性質を論理的に考察したりする力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力，関数の局所的な変化に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○十分に数理的に考察する力を付けている。 ○応用問題の解法を自分の言葉で表現し、記述できる。 ○事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の過程を振り返って考察を深めようとしている。 ○副教材の応用問題に積極的に取り組む。 ○数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を養う。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な概念、原理・法則、用語・記などを理解している。 ○副教材の基本的な内容をおおむね理解している。 ○数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学科したり、数学的に解釈する技能を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書で学んだ範囲に対し、副教材で復習を行う。 ○提出課題等、計画的に行っている。 ○問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○数学用語を理解し、例題を参考にして練習問題に取り組む。 ○数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師の説明を参考にし、公式成立の理由を理解しようと努める。

--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 改訂版「新編 数学C」 数研出版
副教材 改訂版3TRIAL 数学C 数研出版

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	
2学期	
3学期	第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習 教科書を読み、疑問点をチェックする。
- ・授業 積極的な態度で臨み、ノートをきちんととる。疑問点については、授業中に質問する、あるいは休み時間などを利用して先生に質問するなどして早めに解決する。
- ・復習 教科書の問題や問題集を解くことによって、学習内容が身に付いているかどうかを確認するとともに、応用問題にもチャレンジするようにする。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 ・レポート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・学習活動への取り組み ・宿題 ・長期休業中の課題
重みづけ	4	4	2
	数学の学習の基礎となる基本的な「知識・技能」と「思考・判断・表現」の確実な習得を図るために、「知識・技能」と「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を深く理解し、知識を身に付けており、日常生活の中で活用することができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けており、教師等による最小限の助力で日常生活と関連付けることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようとしている。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
成長のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改

ホ ツ プ	などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。 ”
-------------	----------------------------	---	---

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新物理基礎」 第一学習社
副教材 「新課程版 ネオパルノート 物理基礎」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則
2 学 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章 熱 第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波
3 学 期	第Ⅳ章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く未来

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切に、積極的に取り組み、復習・定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。
- ・復習として、問題集等を利用し、疑問点、理解できない部分は、積極的に質問すること。
- ・しっかりと自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりすること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重 み づ け	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を深く理解し、知識を身に付けており、日常生活の中で活用することができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けており、教師等による最小限の助力で日常生活と関連付けることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようとしている。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
成長のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについての基本的な概念や原理・法則を理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作 	<ul style="list-style-type: none"> ○物体の運動と様々なエネルギーについて、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改

ホ ツ プ	などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	行うことができる。 ○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに、観察、実験結果を考察し、規則性を見いだしたり、既知の事柄や原理・法則などを基に、新たに直面した事象を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察をすることができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。	善すべき点について考えようとする。 ○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。 ”
-------------	----------------------------	---	---

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新物理基礎」 第一学習社
副教材 「新課程版 ネオパルノート 物理基礎」 第一学習社

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則
2 学 期	第Ⅰ章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー 第Ⅱ章 熱 第Ⅲ章 波動 第1節 波の性質 第2節 音波
3 学 期	第Ⅳ章 電気 第1節 電荷と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 終章 物理学が拓く未来

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・授業を大切に、積極的に取り組み、復習・定期考査に役立つ丁寧なノート作成を心がけること。
- ・復習として、問題集等を利用し、疑問点、理解できない部分は、積極的に質問すること。
- ・しっかりと自分の意見を発表したり、他人の意見を聞いたりすること。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重 み づ け	2	2	1
	基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
シ ャ ン プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。</p> <p>○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。</p>
ス テ ッ プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。</p> <p>○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。</p>
	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。</p>

成長のプロセス

ホ ツ プ	<p>○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。</p>
-------------	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編 化学基礎」 （数研出版）

副教材 「新課程 新編 化学基礎 準拠 サポートノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成
2 学 期	第1編 物質の構成と化学結合（続き） ・第3章 粒子の結合 ・第2章 物質の構成粒子
3 学 期	第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・自主学习プリント
重 み づ け	2	2	1
	化学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 シャンプ 	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。 ○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。
成長のプロセス ステップ 	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。 ○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。 ○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。	○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。 ○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。 ○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。
	○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。 ○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。	○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。	○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。 ○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。

ホ ツ プ	<p>○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。</p>
-------------	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編 化学基礎」 （数研出版）

副教材 「新課程 新編 化学基礎 準拠 サポートノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成 ・第2章 物質の構成粒子 ・第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式
2 学 期	第2編 物質の変化（続き） ・第2章 酸と塩基の反応 ・第3章 酸化還元反応 化学基礎（2学期の中間考査までに終了）、に引き続き、化学の履修をする
3 学 期	

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・ 授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・自主学習プリント
重 み づ け	2	2	1
	化学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
シ ャ ン プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。</p> <p>○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。</p>
ス テ ッ プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。</p> <p>○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。</p>
	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。</p>

成長のプロセス

ホ ツ プ	<p>○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。</p>
-------------	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編 化学基礎」 （数研出版）

副教材 「新課程 新編 化学基礎 準拠 サポートノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成 ・第2章 物質の構成粒子
2 学 期	第1編 物質の構成と化学結合（続き） ・第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式 ・第2章 酸と塩基の反応
3 学 期	第2編 物質の変化（続き） ・第3章 酸化還元反応

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・ 授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題 ・ 自主学習プリント
重 み づ け	2	2	1
	化学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
シ ャ ン プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的、かつ効果的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。</p> <p>○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。</p>
ス テ ッ プ	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について深く理解し、自然の物事・現象を科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って、論理的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する物事・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。</p> <p>○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。</p>
	<p>○物質とその変化に関する基本的な概念や原理・法則について理解している。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。</p>	<p>○物質とその変化について、科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。</p>

成長のプロセス

ホ ツ プ	<p>○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。</p>
-------------	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新編 化学基礎」 （数研出版）

副教材 「新課程 新編 化学基礎 準拠 サポートノート」 （数研出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学 期	序章 化学の特徴 第1編 物質の構成と化学結合 ・第1章 物質の構成 ・第2章 物質の構成粒子 ・第3章 粒子の結合 第2編 物質の変化 ・第1章 物質と化学反応式
2 学 期	第2編 物質の変化（続き） ・第2章 酸と塩基の反応 ・第3章 酸化還元反応 化学基礎（2学期の中間考査までに終了）、に引き続き、化学の履修をする
3 学 期	

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書に目を通し、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておく。
- ・ 授業を大切に積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評 価 の 材 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小テスト ・ 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート ・ 授業における発表や成果物 ・ ノート ・ 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 振り返りシート、感想 ・ レポート ・ 長期休業中の課題 ・ 自主学習プリント
重 み づ け	2	2	1
	化学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。		

目標

・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する高度な技能を身に付ける。そして、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。さらに、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

- (1) DNA を基本とする生命現象と高度な実験・観察を行う技能を養う。(知識及び技能)
- (2) 様々なデータ、資料を客観的に解析して判断する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 様々な資料を用いて疑問点を自らの力で解決する能力を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な文献や資料から、発展的に知識を取り入れ、それらを有機的に結合して理解することができる。 ○自ら設定した課題を解決するための実験・観察の手段を自分の力でデザインすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現象の判断や説明だけでなく、学んできた知識を基に、論理的に、今後の予測を立てることができる。 ○様々な手法を用いて、抽象的な思考を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ生物学の知識をベースに、様々な分野の知識と関連させ、発展的に学ぶことができる。 ○様々な疑問点を文献やインターネットだけでなく、様々な人々とコミュニケーションをとることによって学び、見識をさらに広げることができる。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の基本的な知識の理解に加えて、自ら疑問を持ち、それを解決することによって、知識の幅を広げることができる。 ○高度な実験・観察を行い、データを解析して基本的な考察が出来るだけでなく、そこから新しい課題を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを基に、バイオテクノロジー等の社会で実用化されている技術について、その影響の大きさ等、さらに深く考えることが出来る。 ○験・観察の結果を正確に、且つ、理解しやすいようにプレゼンテーションすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物的な事物・現象に強い関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究することができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどに加え、様々な文献から参考になる事柄を常にノートに記録している。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の基本的知識をしっかりと理解する。 ○できるだけ、自分の力で正確に実験・観察を行い、データを出すことができる。さらに、データについて、基本的な考察が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを基に、バイオテクノロジー等の社会で実用化されている技術について考えることが出来る。 ○実験・観察の結果をきちんとプレゼンテーションすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○DNA やバイオテクノロジー等に興味を持ち、自ら積極的に学ぶことができる。 ○提出物や課題を期日までに提出できる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、さら授業から多くの情報を得ようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生物」 （東京書籍）
 副教材 「改訂新課程ニューグローバル生物」 （東京書籍）
 「新課程 二訂版スクエア最新図説生物」 （第一学習社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 編 生物の進化 1 章 生命の起源と細胞の進化 ・共通性と多様性をつなぐ進化、生命の誕生、生命の多様性と地球環境の変化 2 章 遺伝子の変化と生命のしくみ ・遺伝的変異、多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖、進化の定義と自然選択による進化、遺伝子レベルでみる進化、種分化
2 学期	3 章 生物の系統 ・生物の系統、生物の系統分類、霊長類の中のヒト、人類の出現と変遷 2 編 生命現象と物質 1 章 細胞と物質 ・細胞を構成する成分、生体膜のはたらき、細胞の構造、タンパク質の構造、酵素としてはたらくタンパク質、生命現象とタンパク質
3 学期	2 章 代謝とエネルギー ・代謝とエネルギー、呼吸、発酵、光合成

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・教科書と配信される動画を視聴して、予習行う。その後、配信される問題を解き、自分の理解不十分な所を把握しておく。
- ・理解不十分な所を中心に、しっかりと授業に取り組む。
- ・家で教科書ノートを見直し、問題集の問題に取り組み、復習を行う。
- ・疑問点は、様々な資料を活用して、すぐに調べる。わからない時には、必ず担当の教員に質問をする。
- ・普段から、新聞、テレビのニュース、ドキュメンタリー番組等から積極的に情報を入手する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。 等		

目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
<p>成長のプロセス</p> <p>▲</p>	<p>ジャンプ</p> <p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、自然の物事・現象を、科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けており、その注意点や理由についても深く理解している。</p>	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について、科学的に探究するための観察や実験方法を自ら考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、自ら観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、テーマに沿って論理的、かつ効果的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を常に振り返りながら創意工夫し、課題を解決することができる。</p> <p>○常に学習態度が主体的・対話的であり、より深く学び続けようとする姿勢が見られる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒等の発言などをノートに記録しており、疑問点等について書籍やインターネットなどを用いてさらに詳しく調べようとしている。</p>
	<p>ステップ</p> <p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての基本的な概念について深く理解し、科学的な視点でとらえることができる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による最小限の助力で考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による最小限の助力で観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。</p>	<p>○学習内容をそれに関する事物・現象と結びつけ、自ら進んで知識・技能や考察力を高めようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返りながら調整し、学び続けようすることができる。</p> <p>○学習態度が主体的・対話的であり、課題に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどを常にノートに記録している。</p>



ホップ

	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系についての知識を身につけている。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観察、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる。</p>	<p>○生物の特徴やヒトの体の調節、生物の多様性と生態系について科学的に探究するための観察や実験方法を教師等による解説や助力を頼りに考え、見通しをもって実験、観察を行うことができる。</p> <p>○学習内容について、教師等による解説や助力を頼りに観察、実験結果を考察し、規則性を見出したり、既知の事柄や原理・法則などをもとに、新たに直面した事柄を論理的に説明しようとしたりするなど、科学的に考察することができる。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、形式に沿った表現ができる。</p>	<p>○学習内容を正確に理解するために、基礎的・基本的な知識・技能や考察力を身につけようとしている。</p> <p>○自分の学び方を振り返り、改善すべき点について考えようとする。</p> <p>○課題や提出物などを、期日までに自分の力でやりきることができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、授業から多くの情報を得ようとする。</p>
--	--	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 新生物基礎」 （第一学習社）

副教材 「新課程版 標準セミナーノート 生物基礎」 （第一学習社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	第4章 生物の多様性と生態系 ・植生と遷移
2 学期	第4章 生物の多様性と生態系 ・生態系とその保全
3 学期	第4章 生物の多様性 ・学習のまとめ

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として教科書を読み、興味・関心のある部分、疑問や理解できない部分を発見しておくこと。
- ・ 授業を大切にしながら積極的に取り組み、復習や定期考査前の学習に役立つよう、丁寧にノートを作る。
- ・ 復習として問題集等を利用し、疑問点や理解できない部分は積極的に質問する。
- ・ 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を重視して成績をつけます。3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

目標

・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する高度な技能を身に付ける。そして、観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。さらに、生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

- (1) DNA を基本とする生命現象と高度な実験・観察を行う技能を養う。(知識及び技能)
- (2) 様々なデータ、資料を客観的に解析して判断する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 様々な資料を用いて疑問点を自らの力で解決する能力を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な文献や資料から、発展的に知識を取り入れ、それらを有機的に結合して理解することができる。 ○自ら設定した課題を解決するための実験・観察の手段を自分の力でデザインすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○現象の判断や説明だけでなく、学んできた知識を基に、論理的に、今後の予測を立てることができる。 ○様々な手法を用いて、抽象的な思考を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ生物学の知識をベースに、様々な分野の知識と関連させ、発展的に学ぶことができる。 ○様々な疑問点を文献やインターネットだけでなく、様々な人々とコミュニケーションをとることによって学び、見識をさらに広げることができる。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の基本的な知識の理解に加えて、自ら疑問を持ち、それを解決することによって、知識の幅を広げることができる。 ○高度な実験・観察を行い、データを解析して基本的な考察が出来るだけでなく、そこから新しい課題を見出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを基に、バイオテクノロジー等の社会で実用化されている技術について、その影響の大きさ等、さらに深く考えることが出来る。 ○験・観察の結果を正確に、且つ、理解しやすいようにプレゼンテーションすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生物的な事物・現象に強い関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究することができる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどに加え、様々な文献から参考になる事柄を常にノートに記録している。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の基本的知識をしっかりと理解する。 ○できるだけ、自分の力で正確に実験・観察を行い、データを出すことができる。さらに、データについて、基本的な考察が出来る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだことを基に、バイオテクノロジー等の社会で実用化されている技術について考えることが出来る。 ○実験・観察の結果をきちんとプレゼンテーションすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○DNA やバイオテクノロジー等に興味を持ち、自ら積極的に学ぶことができる。 ○提出物や課題を期日までに提出できる。 ○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、さら授業から多くの情報を得ようとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「生物」 （東京書籍）
 副教材 「改訂新課程ニューグローバル生物」 （東京書籍）
 「新課程 二訂版スクエア最新図説生物」 （第一学習社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	1 編 生物の進化 1 章 生命の起源と細胞の進化 ・共通性と多様性をつなぐ進化、生命の誕生、生命の多様性と地球環境の変化 2 章 遺伝子の変化と生命のしくみ ・遺伝的変異、多様な遺伝的変異をもたらす有性生殖、進化の定義と自然選択による進化、遺伝子レベルでみる進化、種分化
2 学期	3 章 生物の系統 ・生物の系統、生物の系統分類、霊長類の中のヒト、人類の出現と変遷 2 編 生命現象と物質 1 章 細胞と物質 ・細胞を構成する成分、生体膜のはたらき、細胞の構造、タンパク質の構造、酵素としてはたらくタンパク質、生命現象とタンパク質
3 学期	2 章 代謝とエネルギー ・代謝とエネルギー、呼吸、発酵、光合成

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・教科書と配信される動画を視聴して、予習行う。その後、配信される問題を解き、自分の理解不十分な所を把握しておく。
- ・理解不十分な所を中心に、しっかりと授業に取り組む。
- ・家で教科書ノートを見直し、問題集の問題に取り組み、復習を行う。
- ・疑問点は、様々な資料を活用して、すぐに調べる。わからない時には、必ず担当の教員に質問をする。
- ・普段から、新聞、テレビのニュース、ドキュメンタリー番組等から積極的に情報を入手する。
- ・実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	生物の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。 等		

目 標

日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、自ら課題を設定し、見通しをもって観察、実験などを行うことができる、科学的に探究する資質・能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的に探究しようとする態度を養う。

- (1) 日常生活や社会との関連を図りながら、宇宙や地球の活動について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観測、実験などに関する技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 観測、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 我々が生活している宇宙や地球について主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然を尊重する態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<p>○宇宙の構造とそこに存在する地球との関係を正確に理解し、そこで展開される様々な現象について瀬角に理解することができる。</p> <p>○様々な観測機器の原理を正確に理解し、そのデータを利用することができる。</p>	<p>○現象の判断や説明だけでなく、学んできた知識を基に、論理的に、今後の予測を立てることができる。</p> <p>○様々な手法を用いて、抽象的な思考を説明することができる。</p>	<p>○学んだ地学基礎の知識をベースに、様々な分野の知識と関連させ、発展的に学ぶことができる。</p> <p>○様々な疑問点を文献やインターネットだけでなく、様々な人々とコミュニケーションをとることによって学び、見識をさらに広げることができる。</p>
	ステップ	<p>○宇宙の歴史や地球の歴史を的確に理解し、地球で起こる様々な事象が宇宙現象と関わりがあることを科学的に理解できる。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観測、実験に関する基本操作などを身に付けている。</p>	<p>○個々の事象の説明だけでなく、それぞれの事象を関連させ、その理由を深く理解して判断することができる。</p> <p>○学習内容についてのプレゼンテーション等で論理的に且つ効果的に説明することができる</p>	<p>○地学的な事物・現象に強い関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究することができる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどに加え、様々な文献から参考になる事柄を常にノートに記録している。</p>
	ホップ	<p>○地学的な事物・現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。</p> <p>○科学的に探究するために必要な観測、実験に関する基本操作などを、教師等による最小限の助力で行うことができる</p>	<p>○火山や地震、オーロラ等の現象のメカニズムを正確に理解し、実際の事象に当てはめて判断、説明をすることが出来る。</p> <p>○学習内容についてのレポートやプレゼンテーション等で、論理的に表現することができる。</p>	<p>○宇宙や地球に興味を持ち、自ら積極的に学ぶことができる。</p> <p>○提出物や課題を期日までに提出できる。</p> <p>○授業内容を、板書だけでなく、教師や他の生徒の発言、自分の考えなどをノートに記録し、さら授業から多くの情報を得ようとする。</p>

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「高等学校 地学基礎」 （第一学習社）
副教材 「新課程版 ネオパルノート地学基礎」 （第一学習社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>第1章 地球の姿</p> <p>第1節 地球の概観</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球の形と大きさ、地球の形の特徴と大きさ、地球の内部構造、地球内部の動き <p>第2節 プレートの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> プレートの分布と運動、プレートの境界、地殻の変動と地質構造、変性作用、大地形の形成
2 学期	<p>第2章 地球の活動</p> <p>第1節 地震</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震の発生と分布、地震波の伝わり方、日本付近で発生する地震①② <p>第2節 火山活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 火山の分布、火山の形成とマグマ、火山の噴火、火山の地形、火成岩の形成、火成岩の種類
3 学期	<p>第3章 大気と海洋</p> <p>第1節 地球のエネルギー収支</p> <ul style="list-style-type: none"> 大気の構成と特徴①②、対流圏における水の変化、太陽放射と地球放射、地球を出入りするエネルギー <p>第2節 大気と海水の運動</p> <ul style="list-style-type: none"> エネルギー収支の緯度分布、風、大気の循環①②、海洋の構造、海洋の大循環、エルニーニョ現象とラニーニャ現象

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- 教科書と配信される動画を視聴して、予習行う。その後、配信される問題を解き、自分の理解不十分な所を把握しておく。
- 理解不十分な所を中心に、しっかりと授業に取り組む。
- 家で教科書ノートを見直し、問題集の問題に取り組み、復習を行う。
- 疑問点は、様々な資料を活用して、すぐに調べる。わからない時には、必ず担当の教員に質問をする。
- 普段から、新聞、テレビのニュース、ドキュメンタリー番組等から積極的に情報を入手する。
- 実験は担当教員の指示に従っておこない、記録をとり、報告書（レポート）にまとめる。この際に疑問点、実験の成否についても考察すること。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 レポート 授業における発表や成果物 ノート 長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ノート 振り返りシート、感想 レポート 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	地学の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。 等		

目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の高度な技を身に付けたり、記録の更新に挑戦したり、仲間に感動を与えられる表現ができる。 ○ゲームのルールや役割に応じた練習方法を工夫し、全員で楽しむためのルールの調整ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の課題解決のために効果的な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を合理的・計画的に考察し、自分の考えを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイを大切にできる態度が定着している。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、さらに他者への注意喚起を促す言動や行動により健康・安全を確保することができる。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の技を身に付けたり、記録に積極的に挑戦したり、感情を込めて表現したりすることができる。 ○ゲームのルールを理解し、教師や仲間からの助言をもとに、練習方法を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識・技能を用いて、自己や仲間の状況に応じた適切な練習方法を実践することができる。 ○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を最小限の助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイをしようと心がけている。 ○怪我等を回避するための、適正な運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全を確保することができる。

△
ホップ

	<p>○各種目の技を身に付けようと努力したり、記録に挑戦したり、表現したりすることができる。</p> <p>○与えられたルールを概ね理解し、教師や仲間による見本や練習方法をもとに、体力の高め方を理解する。</p>	<p>○教師や仲間の助言があれば、自己の状況に応じた練習方法を実践することができる。</p> <p>○学習成果を踏まえて、自己に適した「する、みる、支える、知る」などの運動を生涯にわたって楽しむための関わり方を教師等の個別の解説や助言によって理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○各種目の決められたルールやマナーを守るだけでなく、教師からの助言があれば相手や仲間を尊重するなどのフェアなプレイに取り組む様子がみられる。</p> <p>○教師からの助言があれば、怪我等を回避するための、運動量や、とるべき行動を認識し、健康・安全に努める。</p>
--	--	--	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「新高等保健体育」 （大修館書店）

副教材 「ステップアップ高校スポーツ」 （大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>・体づくり運動 選択① 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</p>
2 学期	<p>・体づくり運動 ・体育理論 選択② 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道 ・持久走</p>
3 学期	<p>・体づくり運動 ・持久走 選択③ 球技（バレーボール・バスケットボール・ハンドボール・テニス・卓球・サッカー・バドミントン・ソフトボール）・武道</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業を大切にして、教師や仲間のアドバイスを聞いて、技能を高める習慣を身につけるようにする。
- ・実技教科のため、欠席をせずに、課題に粘り強く取り組む。
- ・仲間と協力して、練習やゲーム、発表会に取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルテスト ・ルールテスト ・体育理論テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート、感想
重みづけ	2	1	1
	実技教科のため、基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。

- (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
 ジャンプ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について個人、またはグループで課題を設定し考察することで理解を深めることができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、自ら思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解し、自分の考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組むことができている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組むことができている。
 ステップ	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について理解することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について理解することができる。	○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、最小限の助言によって、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。	○生涯を通じる健康についての学習に主体的に取り組もうとしている。 ○健康を支える環境づくりについての学習に主体的に取り組もうとしている。

ホップ

	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について教師の解説や助言により理解することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解することができる。</p>	<p>○思春期から高齢期までを健康に過ごすための健康課題について課題を発見し、健康に過ごすための方法を、教師等の助言があれば、思考し判断するとともに、それらを表現することができる。</p> <p>○様々な環境問題、食品衛生、医薬品の分類と使用法、保健・医療サービス制度、健康課題に対応した各種の保健活動や社会的対策について教師の解説や助言により理解し、自分なりの考えを持つことができる。</p>	<p>○生涯を通じる健康についての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p> <p>○健康を支える環境づくりについての学習に教師からの助言があれば、取り組もうとしている。</p>
--	---	---	--

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

- 教科書 「新高等保健体育」（大修館書店）
 副教材 「新高等保健体育ノート」（大修館書店）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容			
第3章 生涯を通じる健康			
1 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康 </td> <td style="width: 50%;"> ⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み </td> </tr> </table>	① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康	⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み
① 思春期と健康 ② 性意識の変化と性行動の選択 ③ 結婚生活と健康 ④ 妊娠・出産と健康	⑤ 家族計画 ⑥ 加齢と健康 ⑦ 高齢社会に対応した取り組み		
第3章 生涯を通じる健康 第4章 健康を支える環境づくり			
2 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ① 大気汚染と健康 ② 水質汚濁・土壌汚染と健康 </td> <td style="width: 50%;"> ③ 健康被害を防ぐための環境対策 ④ 環境衛生に関わる活動 ⑤ 食品の安全性と健康 ⑥ 食品の安全性を確保する取り組み </td> </tr> </table>	⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ① 大気汚染と健康 ② 水質汚濁・土壌汚染と健康	③ 健康被害を防ぐための環境対策 ④ 環境衛生に関わる活動 ⑤ 食品の安全性と健康 ⑥ 食品の安全性を確保する取り組み
⑧ 働くことと健康 ⑨ 労働災害の防止 ⑩ 働く人の健康づくり ① 大気汚染と健康 ② 水質汚濁・土壌汚染と健康	③ 健康被害を防ぐための環境対策 ④ 環境衛生に関わる活動 ⑤ 食品の安全性と健康 ⑥ 食品の安全性を確保する取り組み		
第4章 健康を支える環境づくり			
3 学期	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"> ⑦ 保健制度とその活用 ⑧ 医療制度とその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用 </td> <td style="width: 50%;"> ⑩ 様々な保健活動や対策 ⑪ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり </td> </tr> </table>	⑦ 保健制度とその活用 ⑧ 医療制度とその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用	⑩ 様々な保健活動や対策 ⑪ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり
⑦ 保健制度とその活用 ⑧ 医療制度とその活用 ⑨ 医薬品の制度とその活用	⑩ 様々な保健活動や対策 ⑪ 誰もが健康に過ごせる社会にむけた環境づくり		

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・実生活に結びつけて、それぞれのテーマを学習する。
- ・グループ学習等を通して、他者とのコミュニケーションを図り、知識を定着させる。
- ・ワークシートやノートを活用して、用語の理解や発問に対して答えられるようにする。
- ・教師のアドバイスを聞いて、課題に粘り強く取り組む。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業における発表や成果物 ・ノート ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート、感想 ・ノート ・定期考査
重みづけ	2	:	1
	保健の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」を重視して成績をつけます。		

目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などのかかわり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的・協同的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ全体を見ながら、獣人に助言をしつつ、課題を完成させることができる。 ○鑑賞で学んだことを、実技でも応用できる。 ○授業で学んだことを、書籍やインターネットも活用して、理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を受けずとも、自分の力で課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、これまでの授業や中学校までの経験を生かして、多角的に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○創意工夫をして作品を完成させることができる。 ○様々なジャンルの音楽に振れ、知識の幅を広げたり、深く考えたりできようになろうとする。
ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の力や友人教師の助言を受けながら読譜し、課題を完成させることができる。 ○現在の課題について、過去の授業と関連付けて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○時間内で課題に取り組み、作品を完成させることができる。 ○ノートやワークシートについて、自分なりの言葉でまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分や周りの出している音を注意深く聞き、他者に伝える力を高めようとする。 ○自分の学び方を振り返りながら、学び続けようとする。 ○授業で学んでいる曲を進んで鑑賞している。
ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○ト音譜表、ハ音譜表の音符をそのまま読む、もしくは階名を振って読むことができる。 ○授業の内容を、資料を参考にしながら理解できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を参考にし、課題に取り組むことができる。 ○ノートやワークシートについて、最低限授業で求められることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○自分の学び方を振り返り、直すべきところは改善しようとする。 ○普段から音楽に親しんでいる。

成長のプロセス

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「MOUSA2」（教育芸術社）
副教材 「Music Note」（啓隆社）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	日本の歌、世界の歌を歌おう ・簡単な独唱曲を歌う。外国語作品については、歌詞のニュアンスを知る。 ハンドクラッピングで、2重奏をしよう ・手拍子や足拍子を使い、拍子感や裏拍を感じて演奏する。 指揮者のアシスタントをしてみよう ・管弦楽曲を使用し、楽曲分析を行う。 楽器の種類を分類しよう ・鑑賞を通して、管楽器や弦楽器の分類を行う。楽器の特性を知る。
2学期	映画音楽について学ぶ ・主題歌、挿入歌、SE等を視聴し、実際に演奏してみる。 日本や諸外国の様々な楽器にふれよう ・和楽器や諸外国の民族楽器の音を出してみる。 舞台芸術について知ろう ・歌劇やミュージカルを鑑賞することにより、総合芸術について知る。
3学期	小アンサンブルに取り組もう ・室内楽曲を自分たちに適した編成で編曲し、合奏を楽しむ。 合唱曲を歌おう ・2部合唱以上の作品に取り組み、語感の表現や和声感を感じる。

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切に、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・グループ学習は、メンバーと協力して発表に取り組む。
- ・提出物に関しては、締め切りを守って提出する。
- ・器楽、声楽、創作（楽典含む）、鑑賞とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。
- ・書籍やインターネットなどを活用し、普段から音楽について深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート	・実技テスト ・鑑賞の感想（ノート） ・ワークシート	・ノート ・自己評価、他己評価 ・ワークシート
重みづけ	2	2	1
	音楽の学習の基礎となる演奏力を高めるために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長の プロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主体的に創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○価値意識をもって美術に対する見方や感じ方を深めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主体的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を積極的に鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして真摯に製作に取り組み、作品を完成させることができる。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○美術に対する見方や感じ方を知り、意図や目的について考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に美術の幅広い創造活動に取り組んでいる。 ○他人の作品を鑑賞し、良さや違いを発見し、多様な価値観に気づくことができる。 ○創意工夫をして作品を完成させることができる。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○目標やねらいを意識して作品を制作することができる。 ○表現方法や画材の特徴を知り、表現の幅を広げることができる。 ○丁寧に制作することを意識して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師による助言を参考にし、創造的に発想したり、構想を練ったりすることができる。 ○身の回りの美術について知り、興味関心を持ち、意義や価値について考えることができる。

■何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「美術Ⅱ」（光村図書）

準備物 中学で使用した絵の具セット

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 絵画（よく見て描く） 絵の具を使って作品を制作します。 ・ 彫刻 モチーフをよく観察し、立体で制作します。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザイン、平面 抽象化について学び、作品を制作します。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザイン、立体 生活を彩るデザインを考え、作品を制作します。 ・ 鑑賞 生活の中にあるデザインの意図や役割について考えます。

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 1つ1つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・ 授業時間を大切に、毎回の授業に集中して取り組む。
- ・ 実技教科のため、作品は必ず完成させる。
- ・ 提出物に関しては、期限を守って提出する。
- ・ 絵画、デザイン、立体とまんべんなく取り組むので、苦手意識を減らす。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ アイディアスケッチ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ アイディアスケッチ ・ ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業態度 ・ 準備物 ・ ワークシート
重みづけ	2	2	1
	美術の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目標

書道の創造的な諸活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)
- (2) 書によさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力)
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。(学びに向かう力・人間性等)

■何ができるようになるか(どのような力を、どのレベルまで身につけるのか)

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な書写能力を習得したうえで、芸術書道としての表現性(古典の表現効果や風趣)を理解し、効果的な表現ができる。 ○書の伝統と文化について、見識を深めることができる。 ○古典における線質、字形、構成等の要素を捉え、創作作品を主体的に制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品や書によさを感じ取り、それを言葉で表現し、伝えることができる。 ○自ら心に響く言葉を選定したり、表現したいことを明確にしたりして、その感興に基づき作品の構想を立てることができる。 ○試行錯誤をしながら、より良い作品に仕上げるため変化させることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な活動を通して、知識の幅を広げたり、深く考えたりできる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を模索し、それを尊重できる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、創意工夫を繰り返すことができる。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な書写能力を習得し、芸術書道の表現性を感じ取ることができる。 ○書の伝統と文化について、理解できる。 ○自らの感興に沿った作品作りができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品や書によさを味わい、自分なりの考えを持つことができる。 ○言葉の持つイメージや、表現したいことを伝えることができる。 ○教師や友人からの助言を参考にし、より良い作品に仕上げようとするすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な活動を通して、知識の幅を広げることができる。 ○生活や社会において書が果たしている役割や効用を考えることができる。 ○作品制作において、主体的に取り組み、より良い作品にしようとする態度がみられる。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○文字の点画の構成を理解し、用具用材を正しく使い、表現することができる。 ○書の伝統と文化について、興味を持つことができる。 ○資料を参考にしながら、表現したいことを構想に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品や書によさを考えることができる。 ○作品を鑑賞して、自らの感想や考えを述べるができる。 ○教師からの助言を理解し、作品制作に生かすことができる。 ○与えられた課題に対し、真摯に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提出物や課題等、やるべきことを期日までに自分でやりきろうとする。 ○生活や社会の中で書がどのような場面で用いられているか考えることができる。 ○作品制作において、自分の表現を振り返り、学んだ知識と技能を生かして作品を完成させることができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「書道Ⅱ」（教育出版）
準備物 太筆

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>【篆書の学習】 「石鼓文」、「金文（召尊）」、「甲骨文」の臨書 ・小篆・金文・甲骨文それぞれの特徴を理解し、用筆・運筆法を身につけ表現する。 ・書体の変遷を知り、5書体について理解する。 篆刻 ・姓名印を作る。</p> <p>【隷書の学習】 「曹全碑」、「木簡（居延漢簡）」、「石門頌」の臨書 ・八分・古隷の違いを知り、それぞれの古典の特徴を理解したうえで臨書する。 隷書を使った創作 ・四半切紙に隷書体で作品を創作する。</p>
2 学期	<p>【楷書の学習】 「魏靈藏造像記」、「賢愚経」の臨書 ・特徴的な楷書の書風を表現する。 ・小楷の均整の取れた書美を感じ取り表現する。</p> <p>【行草書の学習】 「集王聖教序」、「真草千字文」、「書譜」の臨書 ・字形の変化について理解し、表現する。</p>
3 学期	<p>【仮名の書の学習】 「高野切第1種」の臨書 ・仮名の基本的用筆法を復習し、古筆の魅力を味わいながら臨書する。 仮名の書の創作 ・俳句を作り、連綿の効果的な表し方、構成法を生かして創作する。</p> <p>【漢字仮名交じりの書の学習】 創作・これまでに学習した書体、書風を生かし、カレンダー作品に仕上げる。</p>

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業時間を大切にして、毎回の授業に熱心に取り組む。
- ・一つ一つの課題に対して目標と向上心を持って取り組む。
- ・日常生活の中で見られる書について関心を持ち、深い考察を心がける。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品 ・草稿、デザインアイディア ・ワークシート ・鑑賞シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・ワークシート ・感想、自己評価
重みづけ	2	2	1
	書道の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と、発想力や創造性の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2つの観点を重視して成績をつけます。		

目 標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方などを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識等を活用して、題材となっているテーマについて正しく読んだり、聞いたりできる。 ○読んだり聞いたりしたことに関連する事柄について、ある程度まとまった文章を論理性に注意して作成し発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○題材の背景にある文化等について自ら調べ、考察したことを論理的に表現しようとする。 ○自らの意志で考察したことを他者と共有し、読み手・聞き手に対してある程度配慮しながら伝えることができる。
	ステップ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識等を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○ある程度の支援があれば、読んだり聞いたりしたことを短い文章にまとめて発表できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員による指示のもと、題材の背景にある文化等について調べ、考察したことを表現しようとする。 ○教員による指示のもと、調べたり、考察したりしたことを他者と共有し、聞き手・読み手に伝えることができる。
	ホップ ▲	<ul style="list-style-type: none"> ○十分な支援があれば、多少の誤りはあるものの、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教師の指導に従って発音や音読を練習し、十分な支援があれば、その場で正しい発音やアクセントで発話できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、ある題材の大まかな意味を読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員等から十分な支援が得られれば、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「LANDMARK English Communication II」 啓林館

副教材 「LANDMARK English Communication II ワークブック」 啓林館

「ビッグ・ディッパー高校英語」数研出版 「クラウン チャンクで英単語 Basic」三省堂

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	Lesson 1 A Swedish Girl' s Discoveries in Japan ・北欧の女子が気づいた日本文化の不思議なことについて学ぶ。（補語になる分詞） Lesson 2 A Message from the Emperor Penguins ・コウテイペンギンの生態について学ぶ。（比較級・最上級・未来完了） Lesson 3 Tokyo' s Seven-minute Miracle ・新幹線の清掃員の仕事や仕事に対する考えについて学ぶ。（倒置・形式目的語） Lesson 4 Seeds for the Future ・タネの保全活動に携わる高校生の取り組みについて学ぶ。（with を使った付帯状況・使役動詞）
2学期	Lesson 5 Language Change over Time ・時代とともに変化する言葉について学ぶ。（疑問詞・同格の that） Lesson 6 Gaudi and His Messenger ・建築家ガウディとその意志を継ぐ日本人彫刻家について学ぶ。（受動態の分詞構文・仮定法） Lesson 7 Letters from a Battlefield ・硫黄島の戦いと兵士からの手紙から戦争について学ぶ。（複合関係代名詞・完了不定詞） Lesson 8 Edo: A Sustainable Society ・江戸時代のリサイクル社会について学ぶ。（関係代名詞・独立分詞構文）
3学期	Lesson 9 Biodiesel Adventure: From Global to Glocal ・山田周生さんのグローバルな取り組みについて学ぶ。（完了形の分詞構文・強調構文） Lesson 10 Our Future with AI ・AI 技術が切り開く未来について学ぶ。（過去についての推量・as if を使った仮定法）

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・授業における発表や成果物
重みづけ	2	2	1
	英語の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得と表現力の向上を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方を的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジ ャ ン プ	<ul style="list-style-type: none"> ○登場した英単語や文法事項を場面や状況に応じて正しく使用することができる。 ○積極的に発音や音読に取り組み、正しい発音やアクセントを身につけており、間違いがあれば気付いて修正することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら興味関心を持って、題材となっているテーマについて調べたり、自らと関連付けて考察したりすることができる。 ○積極的に学んだことを発表しようとしたり、自ら相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ス テ ッ プ	<ul style="list-style-type: none"> ○登場した英単語や文法事項を、例文等を参考にして目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、積極的に発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の指示があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことを、興味関心を持って考察したり、自らの話題として深めたりすることができる。 ○教員の指示があれば、学んだことを発表したり、相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ホ ッ プ	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の支援があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことについて調べたり、自らの話題として考えたりしようとしている。 ○学んだことを相手に伝えたり、考察を共有しようとしたりする姿勢がみられる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

副教材 「チャンクで英単語 Standard」（三省堂）、「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）

「WORKBOOK Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>Lesson 1 Play me, I' m Yours ・ストリートピアノについてのテレビレポート（助動詞+動詞の原形，受け身，S+V[be動詞以外]+C）</p> <p>Lesson 2 Ethical Fashion ・現代のファッション業界についてのニュース記事。ファストファッションの問題点やエシカルファッションについて考える。（S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞]）</p> <p>Lesson 3 One for All, All for One ・ラグビー選手のリーチ・マイケル選手へのインタビュー（現在完了形，過去完了形，仮定法過去の if 節）</p> <p>Lesson 4 Vending Machines ・日本の自動販売機，海外の自動販売機についてのオンライン記事。（関係代名詞（主格），関係代名詞の非制限用法，関係代名詞（目的格））</p>
2 学期	<p>Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ・ユニバーサルデザインのフォント，ブレイルノイエとその開発者の高橋鴻介氏へのインタビューについての雑誌記事（助動詞+受け身，S+V+C [分詞]，S+V+O [if 節] ,It seems [appears] +that 節）</p> <p>Lesson 6 New Banknotes ・2024 年に発行される新紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事（It+is [was] +said+that 節，形式目的語 it と that 節，形式目的語 it と to 不定詞，助動詞+have+過去分詞）</p> <p>Lesson 7 Some Secrets about Colors ・色が私たちに与える影響や色のもつ心理的効果についての論説文（関係代名詞（所有格），同格を表す接続詞 that, 前置詞+関係代名詞，関係副詞 where の非制限用法）</p> <p>Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem ・小田兼利博士が開発した納豆パウダーの誕生秘話と世界へ広がる様子についての論説文（強調構文，強調の助動詞 do, 直前の文を先行詞とする関係代名詞 which, to+have+過去分詞）</p>
3 学期	<p>Lesson 9 Flying after Her Dreams ・アメリカで黒人女性初のパイロットとなったベシー・コールマンの伝記（譲歩を表す副詞節，no matter how [where, when]（※要修正反映），仮定法過去完了，分詞構文（過去分詞））</p> <p>Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robot ・日本が誇るロボットやロボットの労働などについての論説文（過去完了進行形，be+to 不定詞，未来完了形，insist など+that+S+V [動詞の原形]）</p> <p>*実際の授業は種々の都合によりこの通りに行われないことがある。</p>

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようにになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・授業における発表や成果物
比重	2	2	1
学び	英語学習の基礎となる「知識・技能」、「思考・判断・表現力」の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考え方を的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○登場した英単語や文法事項を場面や状況に応じて正しく使用することができる。 ○積極的に発音や音読に取り組み、正しい発音やアクセントを身につけており、間違いがあれば気付いて修正することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて正しく読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを正しく書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら興味関心を持って、題材となっているテーマについて調べたり、自らと関連付けて考察したりすることができる。 ○積極的に学んだことを発表しようとしたり、自ら相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○登場した英単語や文法事項を、例文等を参考にして目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、積極的に発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の指示があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて発表用の原稿などを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことを、興味関心を持って考察したり、自らの話題として深めたりすることができる。 ○教員の指示があれば、学んだことを発表したり、相手と考察を共有しようとしたりすることができる。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、登場した英単語や文法事項を目的や場面に応じて使用することができる。 ○教員の指示があれば、発音や音読に取り組むことができ、正しい発音やアクセントを身につけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、学んだ知識を用いて、題材となっているテーマについて読み取ったり聞き取ったりすることができる。 ○教員の支援があれば、読んだり聞いたりしたことをもとに、与えられたテーマについて簡単な文を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示のもと、題材となっているテーマから学んだことについて調べたり、自らの話題として考えたりしようとしている。 ○学んだことを相手に伝えたり、考察を共有しようとしたりする姿勢がみられる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

副教材 「チャンクで英単語 Standard」（三省堂）、「BIG DIPPER 高校英語」（数研出版）

「WORKBOOK Power On English Communication Ⅱ」（東京書籍）

■いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	<p>Lesson 1 Play me, I' m Yours ・ストリートピアノについてのテレビレポート（助動詞+動詞の原形，受け身，S+V[be動詞以外]+C）</p> <p>Lesson 2 Ethical Fashion ・現代のファッション業界についてのニュース記事。ファストファッションの問題点やエシカルファッションについて考える。（S+V+O+C [形容詞]，S+V [使役] +O+C [原形不定詞]，S+V [知覚] +O+C [現在分詞，原形不定詞]）</p> <p>Lesson 3 One for All, All for One ・ラグビー選手のリーチ・マイケル選手へのインタビュー（現在完了形，過去完了形，仮定法過去の if 節）</p> <p>Lesson 4 Vending Machines ・日本の自動販売機，海外の自動販売機についてのオンライン記事。（関係代名詞（主格），関係代名詞の非制限用法，関係代名詞（目的格））</p>
2 学期	<p>Lesson 5 Design for Connecting Society: Braille Neue ・ユニバーサルデザインのフォント，ブレイルノイエとその開発者の高橋鴻介氏へのインタビューについての雑誌記事（助動詞+受け身，S+V+C [分詞]，S+V+O [if 節] ,It seems [appears] +that 節）</p> <p>Lesson 6 New Banknotes ・2024 年に発行される新紙幣にまつわる話やキャッシュレス化についてのオンライン記事（It+is [was] +said+that 節，形式目的語 it と that 節，形式目的語 it と to 不定詞，助動詞+have+過去分詞）</p> <p>Lesson 7 Some Secrets about Colors ・色が私たちに与える影響や色のもつ心理的効果についての論説文（関係代名詞（所有格），同格を表す接続詞 that, 前置詞+関係代名詞，関係副詞 where の非制限用法）</p> <p>Lesson 8 Powdered Natto Solves a Global Water Problem ・小田兼利博士が開発した納豆パウダーの誕生秘話と世界へ広がる様子についての論説文（強調構文，強調の助動詞 do, 直前の文を先行詞とする関係代名詞 which, to+have+過去分詞）</p>
3 学期	<p>Lesson 9 Flying after Her Dreams ・アメリカで黒人女性初のパイロットとなったベシー・コールマンの伝記（譲歩を表す副詞節，no matter how [where, when]（※要修正反映），仮定法過去完了，分詞構文（過去分詞））</p> <p>Lesson 10 To Work or Not to Work?: Humans and Robot ・日本が誇るロボットやロボットの労働などについての論説文（過去完了進行形，be+to 不定詞，未来完了形，insist など+that+S+V [動詞の原形]）</p> <p>*実際の授業は種々の都合によりこの通りに行われないことがある。</p>

■どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・自分の課題やできるようにになりたいことを意識しながら授業に臨み、授業で何がわかったか、できるようになったかを振り返る習慣をつける。
- ・板書を写し取るだけでなく、自分の考えや疑問点等を書き加えたり、後で調べたことを追記したりするなど、復習に役立つような工夫したノートづくりをする。
- ・提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。
- ・英語で日記をつける、英語の歌を覚えて歌う、興味のある分野について英語の記事を読む等、授業以外でも英語を使う機会を作ってみる。

■学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・定期考査 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・レポート ・授業における発表や成果物 ・ノート ・長期休業中の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・長期休業中の課題 ・授業における発表や成果物
比重	2	2	1
学び	英語学習の基礎となる「知識・技能」、「思考・判断・表現力」の確実な習得を図るために、「知識・技能」、「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。**(知識・技能)**
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。**(思考・判断・表現)**
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。**(学びに向かう力・人間性等)**

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
成長のプロセス	ジャンプ	<ul style="list-style-type: none"> ○場面や状況を理解し、適切な表現を用いて相手の発言の内容を理解し聞きなおすなどして自分の気持ちや考えなどを詳しく表現できる。 ○適切な表現を用いてテーマに沿った発言をしあったり勧誘や望み、感謝等を詳しく伝えあっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自身の活動を振り返りながら、適切な表現を用いながら主体的に表現に取り組もうとしている。 ○学んだ知識を用いて適切な表現の文を作って相手と自分の考えを詳しく伝え合おうとしている。
	ステップ	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、提案、紹介、依頼、説明、質問などの場面に応じた表現の形、意味、用法などを理解し運用できる。 ○学んだ知識を用いて自分の考えや気持ちを話す、書くなどして詳しく伝える技能をおおむね身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面や状況を理解し、適切な表現を用いて相手の発言の内容を理解し自分の気持ちや考えなどを表現できる。 ○説明や発言の内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちを伝え合っている。
	ホップ	<ul style="list-style-type: none"> ○多少の誤りはあるが、提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現を短い文や句を使って運用できる。 ○学んだ知識を用いて自分の考えや気持ちを話す、書くなどして伝える基本的技能を一部身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○場面や状況を理解し、絵や地図のような視覚的補助や接続詞等の補助を使って提案、紹介、依頼、説明、質問などの表現をしようとしている。 ○説明や発言の内容を理解し簡単な語彙を使ってそれに応える自分の考えや気持ちをある程度表現できる。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書	「MY WAY Logic and Expression I」	（三省堂）
	「MY WAY Logic and Expression II」	（三省堂）
副教材	「BIG DIPPER 高校英語」	（数研出版）
	「セレクトプラス英語構文76」	（文英堂）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1学期	Lesson 9 Take Care ・ 関係代名詞 Lesson 10 SDGs - Take Action! ・ 関係副詞、仮定法
2学期	Lesson 1 I Love My Country! ・ 現在完了形、過去完了形、未来をあらわす表現 Lesson 2 The New Wave of Sports ・ 助動詞表現、助動詞+have+過去分詞、be 動詞+to 不定詞 Lesson 3 The Future of Technology ・ 受動態、不定詞①
3学期	Lesson 4 Rediscover <i>Kabuki</i> ・ 不定詞②、知覚動詞、使役動詞 Lesson 5 Will Our Lives Change with AI? ・ 動名詞、分詞構文、〈with+O+分詞〉

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・ 予習として、教科書を読んでわからないところを見つけておく。
- ・ 文や文型、文法事項、語や連語の知識を整理、活用し、中級レベルの英作文に取り組む。
- ・ 様々な場面にふさわしい表現ができるように、英作文に取り組む。
- ・ 学習した表現を口頭で再生し、その表現を使いながら身につけて短い発話や会話に取り組む。
- ・ 提出物は丁寧に仕上げ、期限を守って提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ 小テスト ・ レポート（振り返りプリント） ・ パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期考査 ・ レポート（振り返りプリント） ・ パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ レポート（振り返りプリント） ・ 提出物 ・ 長期休業中の課題
重みづけ	2	2	1
	論理・表現の学習の基礎となる基本的な知識・技能の確実な習得を図るために、「知識・技能」「思考・判断・表現」を重視して成績をつけます。		

目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする（知識及び技能）
- (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。（思考力、判断力、表現力）
- (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。（学びに向かう力・人間性等）

■何ができるようになるか（どのような力を、どのレベルまで身につけるのか）

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等	
成長のプロセス	ジャンプ	○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを理解し、生活の中で活かすことができる。 ○生活に係る技能が身に付き、適切に使うことができる。	○家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。	○周りの人々と協働し、よりよい社会を目指し、地域社会で活動しようとする。 ○自分の家族・家庭や地域の生活に主体的に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動できる。
	ステップ	○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことがおおむね理解でき、生活の中で活かすことができる。 ○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、適切に使うことができる。	○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現できる。	○自分の家族・家庭の生活に関わり、よりよく生活できるよう考え、行動しようとする。 ○課題等やるべきことを、期限までに自分でする。
	ホップ	○人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的なことを知り、教師等による解説や助力を頼りに、おおむね理解できる。 ○保育や介護、衣食住に係る技能を学習したのと同じような場面であれば、周囲の助言があれば適切に使うことができる。	○提示された例を参考に、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、教師等による解説や助力を頼りに解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて表現できる。	○課題等やるべきことを、期限までに自分でやりきろうとする。

■ 何によって学ぶのか（使用教材）

教科書 「図説 家庭基礎」 （実教出版）
副教材 「図説家庭基礎 学習ノート」 （実教出版）

■ いつ、何を学ぶのか（年間の学習計画）

単元名・学習内容	
1 学期	ホームプロジェクトと学校家庭クラブ 自分らしい生き方と家族 ・人の一生と家族・家庭 ・青年期の自立と家族・家庭 衣生活をつくる ・衣生活と健康 ・小物製作
2 学期	子どもとかかわる ・子どもの生活と保育 高齢者とかかわる ・高齢期の生活と福祉 社会とかかわる ・共生社会と福祉 食生活をつくる ・食生活と健康
3 学期	食生活をつくる ・調理実習 住生活をつくる ・住生活と住環境 経済的に自立する ・生活における経済の計画 消費行動を考える ・消費行動と意思決定 ・持続可能なライフスタイル と環境

■ どのように学ぶのか（学び方のアドバイス）

- ・授業で学ぶ知識や技術を自分の生活に活かせるように、常に自分自身の生活を振り返り課題を見つけながら学習する。
- ・作品製作やレポートには計画的に取り組み、期限内に必ず提出する。

■ 学んだことをどう評価するのか（学習評価）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価の材料	・小テスト ・定期考査	・定期考査 ・レポート ・授業における発表や作品 ・ノート ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)	・ノート ・振り返りシート、感想 ・レポート ・実習態度 ・長期休業中の課題 (ホームプロジェクト)
重みづけ	1	1	1
	3つの資質・能力をバランスよく身につけていくために、3観点を同じ重みづけで総括し、成績をつけます。		

2年 組 番	氏名
--------	----